

神戸大学農学部環境生物学コース実施のGAP

3月29日～30日、4月2日～4日の5日間にわたり、神戸大学農学部生命機能科学科環境生物学コースが実施するGAP(グローバルアクションプログラム)に本校6年生(5回生)8名が参加しました。

環境生物学コースの5名の先生方の御指導のもと、「環境浄化に生物機能を応用する技術開発」、「蛍光顕微鏡による生分子の1分子計測技術」、「土壌成分の化学分析」、「電子顕微鏡を用いた作物の細胞観察」、「作物の新種改良につながる遺伝子解析」をテーマにさまざまな実験・実習を行いました。今回の実験・実習は大学3年生後半から4年生レベルの内容です。



参加生徒は5つのテーマから2つを選択し、1つのテーマにつき2日、計4日間実験・実習に参加し、最終日は簡単な発表会、情報交換会を開催しました。

環境生物学コースの先生方、ありがとうございました。

参加生徒の感想(抜粋)

学校の授業では使う顕微鏡も2種類ほどで、2つの条件の異なる実験を比較する(対照実験)ぐらいしか時間も限られているためできません。しかし、大学では実験環境が整っているため、本当に自分の興味のある分野について、深くまで研究していくことができるのだと思いました。今回のGAP活動を通して、今までより「神戸大学農学部に入学して勉強したい」という思いが強くなりました。

今回のGAPで2つのことを感じました。1点目は、実験はうまくいかないことが当然であるということ。大学の先生方は、私たちの失敗を「高校生だから失敗した」と感じておらず、私たちの失敗に対し肯定的な意見を述べていただきました。2点目は、自分の興味が1つに絞り切れていないということです。これからの受験勉強には明確な目標と将来像が必須なので、今回の経験をもとに進路決定をしたいと考えています。今回のGAPは非常に貴重な進路決定と科学に関する見識を深める機会となりました。この経験を活かし、日々の学習にも意欲的に取り組んでいきたいです。